

「コロナ禍の仕事探し実態調査」

vol.1 仕事探しの現状（利用・役に立った機能など）

- 2020年3月～2021年2月に仕事探しを行った方にその方法を聞くと、インターネット等で求人情報を探したという回答がもっとも多かった。転職経験がある方に、以前と今回の仕事探しで変化したことを聞くと、「在宅勤務可能かなど、考慮するようになった。（一都三県／40代）」「以前は少し遠くても探していたが、今は近場で探している。（東海／30代）」のように重視項目の変化に関する意見と、「コロナでハローワークに行くことが難しくなり、ネット検索が増えた。（北関東／20代）」「Web面接が基本なので、所在地を気にせずより多くの企業を検討した。（一都三県／30代）」のように手法の変化に関する意見があった。（P2～P3）
- 仕事探しのメディア・サービスで利用した機能は、「新着求人メール受信」44.7%がもっとも多く、「希望条件に合致するおすすめ求人メール受信」37.7%、「スカウト機能（オファー）」28.5%などが多かった（P4）
- もっとも役に立った機能は、「検索画面におけるおすすめ求人表示」83.6%が一番多く、次いで「希望条件に合致するおすすめ求人メール受信」66.9%、「キャリアコンサルタントへの相談」66.3%などが上位にあげられた。（P5）
- 2020年3月～2021年2月に仕事探しをしたなかで、主に利用したメディア・サービス経由での応募（1社以上）は全体の55.5%であった。学生の応募割合が74.0%でもっとも多く、仕事が決まり活動を終了した割合も65.8%でもっとも多かった。（P6～P7）

調査概要

調査名	コロナ禍の仕事探し実態調査
調査目的	仕事探しの現状と意識を把握すること
調査手法	インターネット調査（インテージ社モニター利用）
調査期間	2021年3月19日（金）～2021年3月24日（水）
対象者条件	・全国、20歳～69歳 ・2020年3月～2021年2月に仕事探しを行った方 ・仕事探し当時、会社員、パート・アルバイト、学生、専業主婦・主夫、無職の方
有効回答数	2,446人

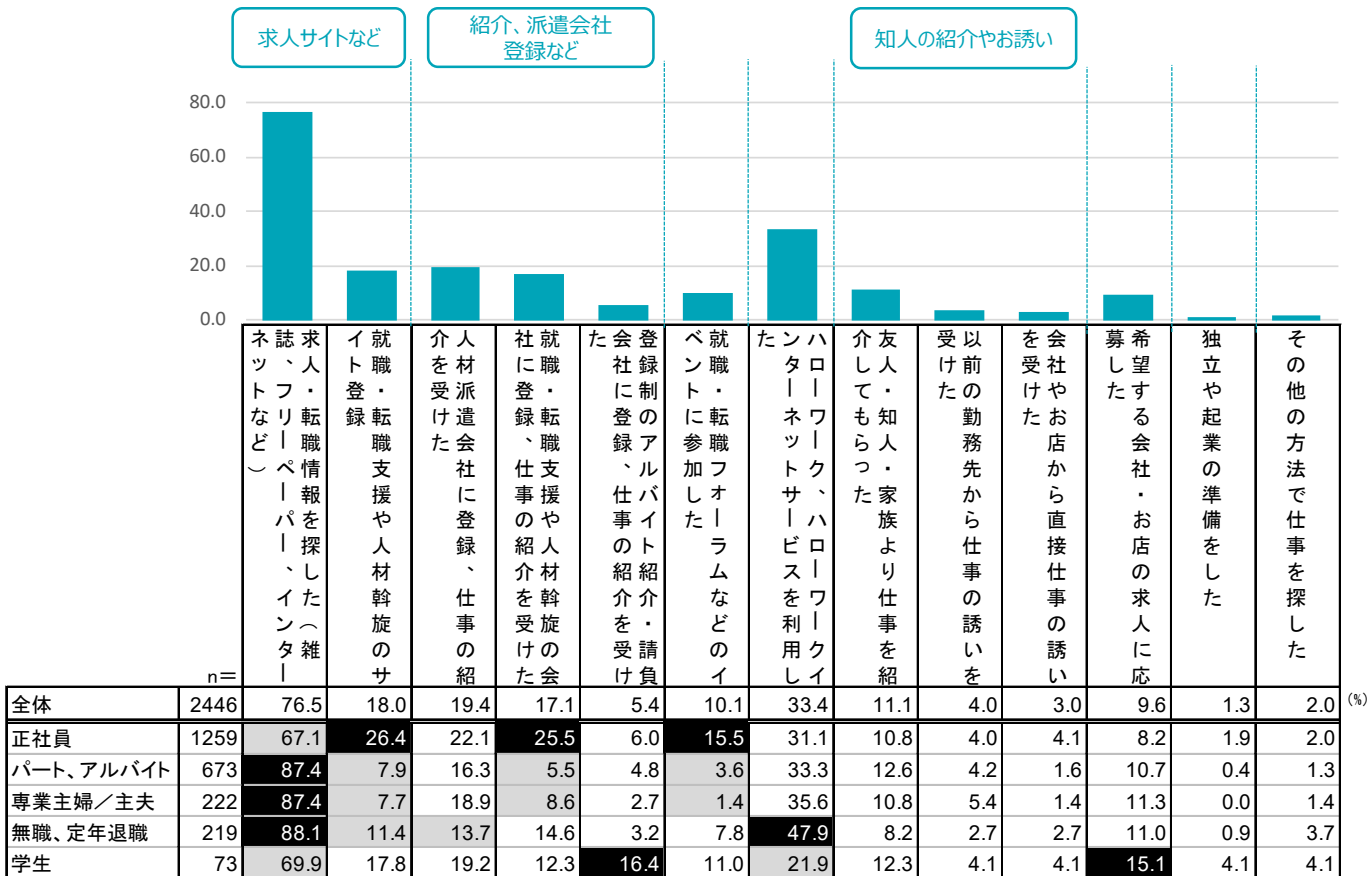
※調査結果は小数点第二位を四捨五入のため、全体が100%にならない場合がある

【本件に関するお問い合わせ先】

<http://jbrc.recruitjobs.co.jp/jbrc/about.html>

1. 仕事探しの方法

- 仕事探しの行動を聞くと、「求人・転職情報を探した（雑誌、フリーペーパー、インターネットなど）」76.5%がもっとも多く、次いで「ハローワーク、ハローワークインターネットサービスを利用した」33.4%となった。
- 仕事探し当時の職業別にみると、全体的に複数方法で探していると考えられるが、インターネットや雑誌などで求人情報を探す方法以外にも、正社員は紹介会社のサイト登録、無職、定年退職はハローワーク利用、学生は会社やお店に直接応募が他よりも多い傾向がみえる。



Q：あなたは最近1年間（2020年3月～2021年2月）に、仕事探しのために何か行動したことがありますか。（MA）

※新卒の就職活動は除きます。

反転シロ又キ …全体の数値より5ポイント以上大きい 灰色アミカケ …全体の数値より5ポイント以上小さい

2. 仕事探して変化したこと

- 転職経験がある方に、以前の仕事探しと2020年3月～2021年2月のコロナ禍における仕事探して変化したことを自由記述で聞いた。ここでは主に、新型コロナウイルス感染拡大やインターネットの普及など外部環境が変わったことにより変化したことを確認する。
- 重視項目の変化では、「在宅勤務」「家から近い場所」など環境面や、自分が無理せず安定して働ける会社や仕事内容選びなどがあげられた。手法の変化では、なるべく外出を控えながらの仕事探しとして地域や年代問わず、インターネットの活用、スマートフォンやアプリ活用の意見が多かった。また、Web面接はあえて選んだ方もいる一方、苦勞したという意見もある。その他、仕事探しはしているが、意欲がなくなったという意見が少数あった。

■重視項目の変化

- 在宅勤務可能かなど、考慮するようになった。（一都三県／40代）
- コロナに関係なく、仕事が安定している会社に転職したいと思うようになった。（一都三県／20代）
- コロナの影響によって、希望する企業を探す前に、業種をしっかりと見るようになった。有名な企業でも、口コミだけでなく情報収集して確認してから、応募するようになった。（中国／20代）
- 自分がしたいことより、自分が続けられそうなこと、プライベートと心身の健康に影響をおよぼさないものを優先して選ぶようになった。（中国／20代）
- 以前は少し遠くても探していたが、今は近場で探している。（東海／30代）
- 以前は倉庫系で家から1時間半以内の範囲なら、どこでも働いていた。今はコロナ禍で持病があるため、家から歩いて行ける様な近い場所で探している。（一都三県／40代）
- 仕事の内容や条件よりも、仕事がしやすい環境（勤務日数、勤務時間、通勤時間と通勤手段）を重視した。（一都三県／60代）

■手法の変化

- コロナでハローワークに行くことが難しくなり、ネット検索が増えた。（北関東／20代）
- ネットで検索するだけで、以前のように求人企業の下見をすることがなくなった。（東海／40代）
- 仕事探しのサイトや探し方の幅が広がり、ネット活用をすることで履歴書や職務経歴書の作成も楽になった。（京阪神／40代）
- チラシでの検索からスマートフォンでの検索に変わった。（東北／60代）
- スマートフォンから手軽に仕事探しができるようになった。（東北／60代）
- 以前の転職は求人情報誌を見て応募、今回はアプリからの応募となり最初は戸惑った。（京阪神／60代）
- 以前は情報誌での検索、今はネットでの検索で、企業についてもネットで細かく調べられる様になった。（一都三県／60代）
- 採用までオンラインで済むものを探していた。（一都三県／20代）
- Web面接が基本なので、所在地を気にせずより多くの企業を検討した。（一都三県／30代）
- コロナ禍の中で対面が難しくWeb面接だった。なかなか伝わりづらい事がわかった。（京阪神／60代）

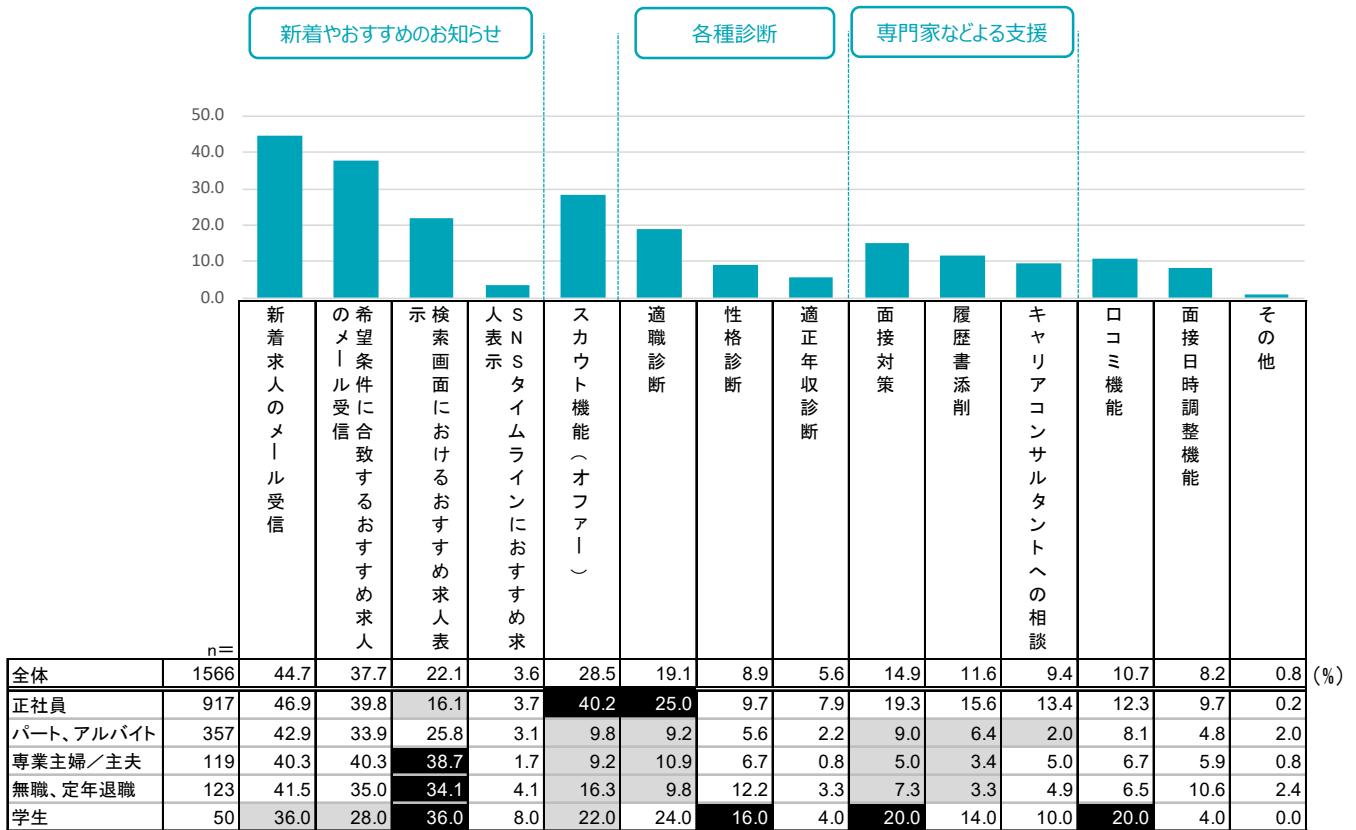
■その他

- コロナ禍の中、長期間の自粛生活で仕事を探そうという意欲がなくなってしまった。（京阪神／60代）
- 仕事をしていない時期が長くなりすぎ、かつこの状況ではなかなか応募に踏み切れなくなった。（京阪神／40代）

Q：転職経験がある方にお聞きます。最近1年間（2020年3月～2021年2月）の仕事探しと以前転職されたときで、仕事の探し方に変化があれば教えてください。できるだけ具体的にご記入ください。

3. 仕事探しメディア・サービスで利用した機能

- 仕事探しで主に利用したメディア・サービス（1つ）を対象として、各種機能の利用有無（複数回答）を聞くと、「新着求人へのメール受信」44.7%がもっとも多く、「希望条件に合致するおすすめ求人のメール受信」37.7%、「スカウト機能（オファー）」28.5%が上位にあげられた。
- 前提として利用するメディア・サービスによる機能有無の違いはあるが、仕事探し当時の職業別でみると、正社員は「新着求人へのメール受信」「スカウト機能（オファー）」「希望条件に合致するおすすめ求人のメール受信」が4割前後、また「適職診断」25.0%も他より多い。
- 同じおすすめのお知らせの機能でも、「希望条件に合致するおすすめ求人のメール受信」は正社員の利用が39.8%あるが、「検索画面におけるおすすめ求人表示」は正社員は16.1%にとどまり、専業主婦／主夫、無職、定年退職、学生のほうが3割台が多い。



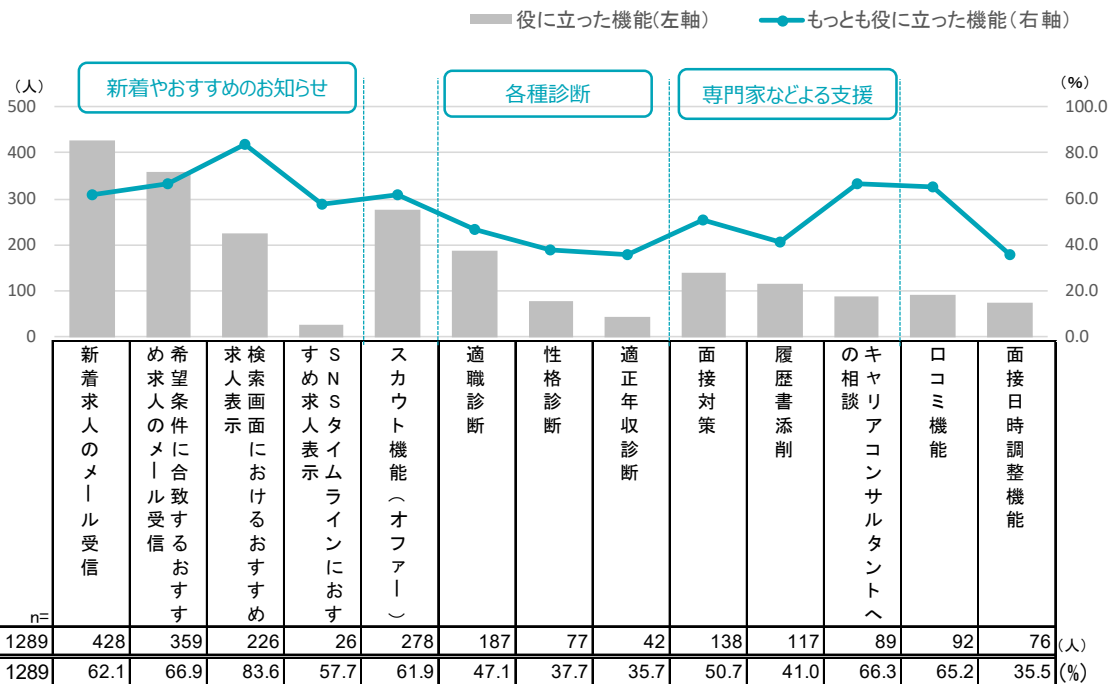
Q：お答えいただいた主に利用したサービスのなかで、利用した機能について、次のうちあてはまるものをすべてお答えください。（MA）

【ベース：1つ以上利用した機能がある】

反転シロヌキ …全体の数値より5ポイント以上大きい 灰色アミカケ …全体の数値より5ポイント以上小さい

4. 役に立った機能ともっとも役に立った機能

- 利用した機能を対象に、役に立ったもの（複数回答）を聞き、その中からもっとも役に立ったもの（単一回答）も聞いた。
- 役に立った機能は「新着求人へのメール受信」「希望条件に合致するおすすめ求人のメール受信」「スカウト機能（オファー）」の順で多く、利用した機能の傾向と同様である。
- もっとも役に立った機能をみると、「検索画面におけるおすすめ求人表示」83.6%がもっとも多く、次いで「希望条件に合致するおすすめ求人のメール受信」66.9%、「キャリアコンサルタントへの相談」66.3%と続く。
- 「キャリアコンサルタントへの相談」は役に立ったと回答した方が89人で少数だが、仕事探しに伴走し継続的にサポートを受けるケースもあるため、もっとも役に立ったと感じる方が多くなったのであろう。また、「検索画面におけるおすすめ求人表示」の利用者は専業主婦／主夫、無職、定年退職、学生と幅広いが（前項参照）、老若男女、職業問わず使いやすく、自分の好きなタイミングで、自らの検索のみでは探せない求人も見つけられることが特徴である。キャリアコンサルタントのように人の介入はないが、自らの視野を広げる機能として役に立っているのではないだろうか。



Q：利用した機能のなかで、役に立った機能をお選びください。またそのなかで、もっとも役に立った機能をひとつだけお選びください。（SA）

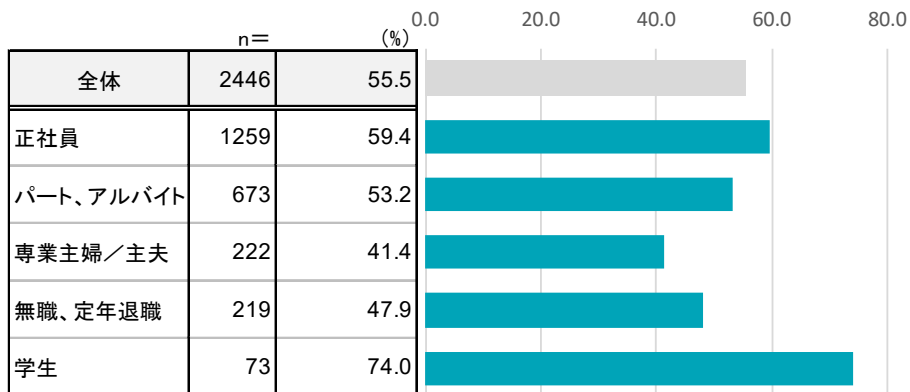
【ベース：1つ以上利用した機能があり、かつ役に立った機能の回答あり】

5. 利用したメディア・サービスの応募状況

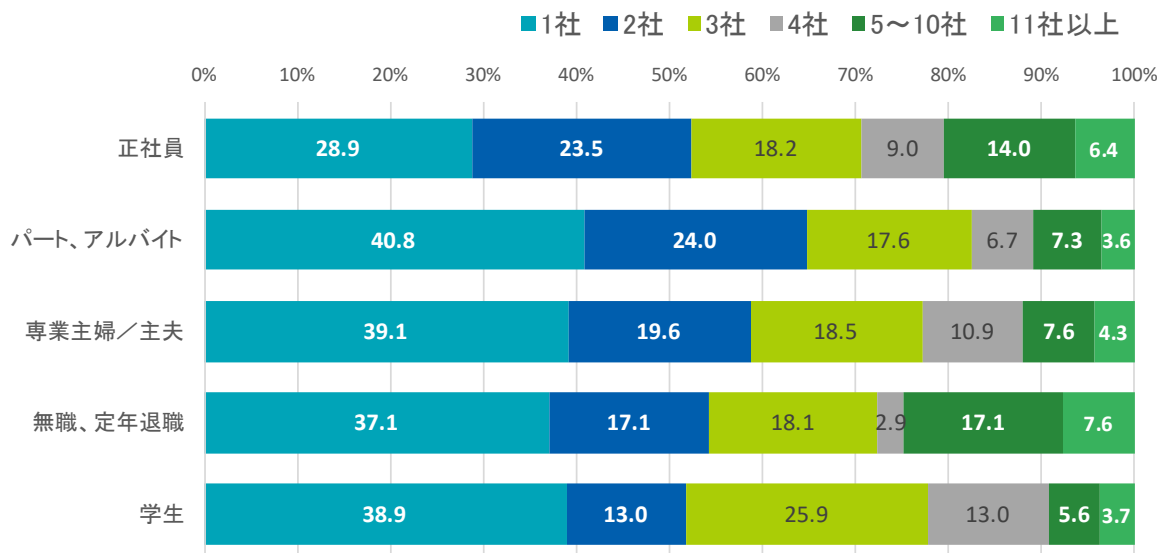
- 応募状況を見ると、1社以上応募したのは全体の55.5%であった。直近1年以内の主に利用した仕事探しメディア・サービス経由での応募を聞いたため、活動直後の方も含まれるが、半数弱は応募に至っていないことがわかった。
- 仕事探し当時の職業別にみると、応募割合は学生74.0%がもっとも多く、正社員59.4%、パート、アルバイト53.2%の順に続く。
- 応募数をみると、すべての職業別で「1社」がもっとも多く、「2社」とあわせて5割以上を占める。正社員と無職、定年退職は「5～10社」が1割を超え、「11社以上」とあわせると2割程度である。

※仕事探し活動全体の応募数ではなく、主に利用したメディア・サービスに限定して聞いた

■ 1社以上応募した割合



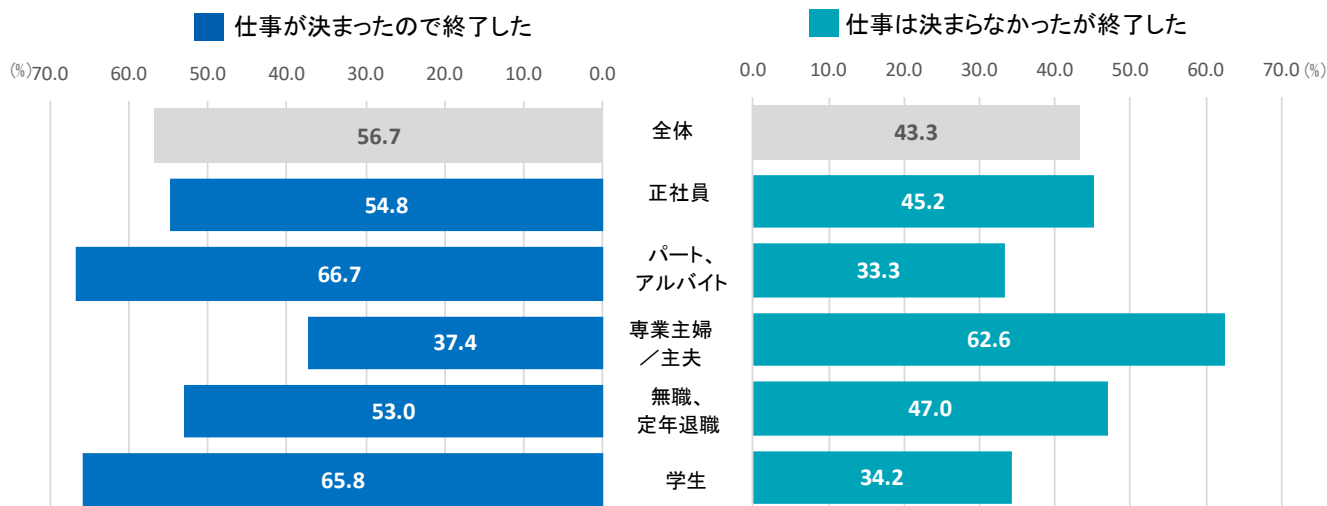
■ 応募数



Q：お答えいただいた主に利用したサービスのなかで応募した数を教えてください。(SA)

6. 仕事探しの結果

- 仕事探しの結果、「仕事が決まったので終了した」は56.7%、「仕事は決まらなかったが終了した」は43.3%となった。応募状況（前項）で半数弱が未応募であったが、同程度決まらず仕事探しを終了している様子から、（主に利用した仕事探しメディア・サービス経由以外でも）応募せずにそのまま仕事探しを終了していると考えられる。
- 仕事探し当時の職業別に見ると、「仕事が決まったので終了した」はパート、アルバイトと学生が6割を超え多い。学生は応募割合が74.0%でもっとも多いため、その分仕事が決まっている方も多いであろう。
- 専業主婦／主夫は「仕事が決まったので終了した」が37.4%にとどまり、「仕事は決まらなかったが終了した」が62.6%にものぼる。前項でみたとおり、専業主婦／主夫は応募割合が41.4%でもっとも少ないため、応募したが決まらないというよりは、応募したい求人が見つけれないなど応募するまでのプロセスで何らかのハードルがあると考えられる。



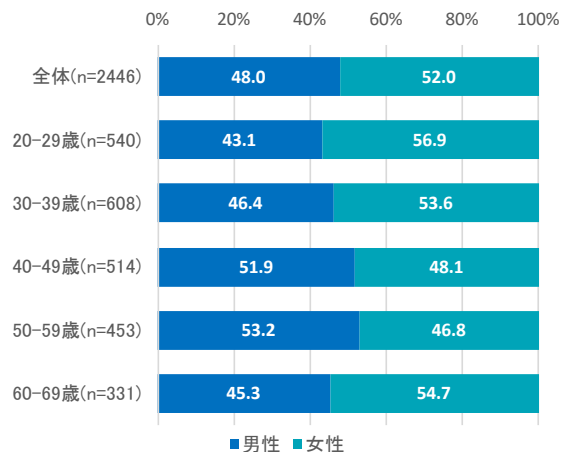
全体n = 2446、正社員n = 1259、パート、アルバイト = 673、専業主婦／主夫n = 222、無職、定年退職n = 219、学生n = 73

Q：最近1年間（2020年3月～2021年2月）に行った新卒以外での仕事探しはすでに終了していますか。（SA）

回答者プロフィール (n=2,446)

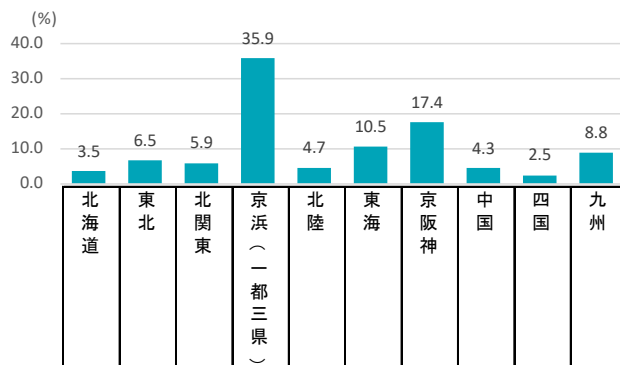
■ 性年代

全体では男性48.0%、女性52.0%、40代と50代は男性が半数以上



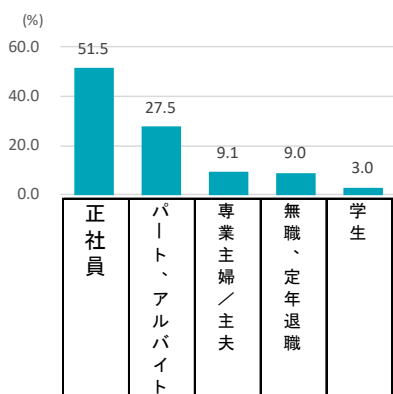
■ 居住地域

京浜（一都三県）35.9%、京阪神17.4%、東海10.5%あわせて6割を占める



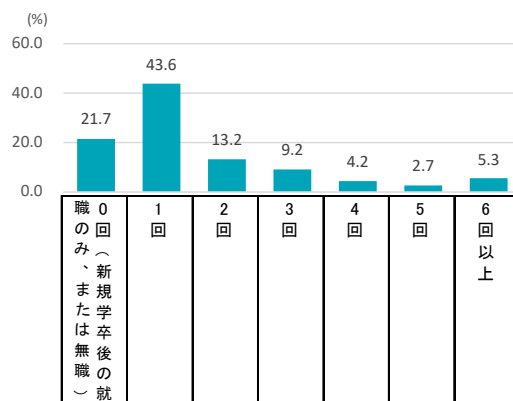
■ 仕事探し当時の職業

就業者は正社員51.5%、パート、アルバイト27.5%あわせて8割弱



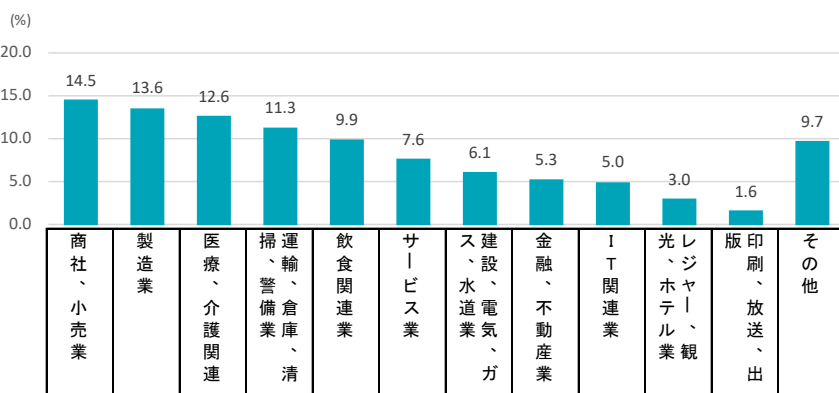
■ 転職回数

回答者の8割程度は転職経験がある



■ 仕事探し当時の勤務先業種（就業者のみ n=1,932）

商社、小売業14.5%、製造業13.6%、医療、介護関連12.6%などが多い



■ 仕事探し当時の勤務先職種（就業者のみ n=1,932）

専門系・その他34.2%、事務・営業系28.5%が多い

